

2011年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2011年11月27日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 土橋 誠
飯能市柳町 23-8
<http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/>
印刷所 (株)シャローム印刷

第四十回埼玉地区教会全体修養会

秩父教会
都築 英夫

主題「神の恵みの再発見」

— 明日の教会を目指して —

聖書・ローマ十二・一〜八

エフエソ四・一〜十六

開催日・八月九〜十一日

会場・軽井沢南ヶ丘倶楽部

講師・山北宣久師

(青山学院院長・前教団議長)

「四十」とは聖書的にはとても意味のある数です。今回の埼玉地区教会全体修養会はこの象徴的な回数を思いめぐらして準備が進められました。またその過程の中で「東日本大震災」が起きました。

主題に掲げた「神の恵みの再発見」ということがすべての人々に必要であると意識しつつ当日を迎えました。

講師の山北先生には二回の主題講演をしていただきました。冒頭の二ヶ所の御言葉から多くの豊かな「恵み」を示していただきました。

山北先生は自由闊達、縦横無尽にお語りくださいました。その内容ここに再現することはとてもできません。私自身はこの講演を聞き、以下の三つのことを示されました。

①「恵み」がわたしたちのすぐ近くに、むしろ内側にある。

②教会がいかに大切であるか。



③私たちが伝道へと召命を受けていること。

ローマ書十二章一節は、直訳すると「自分のからだ(を)、神に喜ばれる聖なる生けるいけにえ(を) 献げなさい」となるそうです。神に献げるために自分で自分を神にふさわしくする必要はない。またできないのです。すでに神に与えられているところのものとなることから、「恵みの再発見」が実現することを実感できました。また、このことを行うための場として教会があることをはっきりと語っていただき、感謝しています。

今回は大震災を覚えるという事を、岩手県、大船渡教会の村谷正人先生をゲストとしてお迎えしました。大船渡教会では四月に埼玉地区からの支援バザーを行いました。修養会委員会は、この春から大船渡教会に赴任された村谷先生に軽井沢で少しでもフレッシュアップしていただきたいと願い、お招きました。そして、お交わりの中で被災をした現場の状況

にね

辞書を読
み物として
読んでみる

のも楽しい。英語の「スワロー」に、「燕」と「飲む」の意味がある。日本語にも飲み下すことを嚥下というが、どこか似た感覚があるのではと思う。

流れ星は英語では「シューティング・スター」という。「シューティング」には、目標に向かって進むという気持ちが入っている。一方「流れ星」には、今ある場所に留まりたい未練と執念があるにも関わらず、無理やり追い立てられるという状況である。

ピューリタンがイギリスの国教に異議を立て、集団で国を捨ててアメリカに渡った。新天地に希望を持って目指して行った精神は、正しくシューティングである。平家の落ち武者が京を離れ東北や山奥に隠れ住んだのは、「流された」と表現される。

私たちは流れ星を見て、「自由」と「あわれ」のどちらのイメージを持つだろうか。どちらも文化である。

長い歴史は、物に名前を付け、それを見た感情を込めながら文化を培ってきたようだ。

(三井田)

をお証ししていただき祈りをあわせました。

また石橋秀雄先生に教団の取り組みについてお話をいただき、大震災について教団全体の課題として向かい合う必要を改めて覚えました。

講師の山北先生には二回の講演と合わせ、閉会礼拝では「人間をとる漁師」と題してマルコ一・十六〜二〇よりメッセージをいただきました。



「とられたもの」が「生きるもの」とされる、それが神の恵みである。力強いメッセージでした。御言葉によって参加者一同が新たな派遣を受けたことを感謝しております。

地区の教会からより多くの参加者を、と願っております。一一〇名の参加者（二十九教会）が集うことができましたことを感謝しています。特に、その中で子どもの参加者（小学生、幼児十四名、中学生三名）が多かったことは何よりの恵

みのしるしでした。

（地区教会全体修養会委員長）

キャンドルサービス

《黙想と祈りの集い》

テゼの歌を用いて

上尾合同教会 勝村 英子

今回の修養会のキャンドルサービスでテゼスタイルの礼拝を試みるようになりました。

東野尚志先生の以下のお話から始まりました。

「テゼ共同体はブラザー・ロジェによって始められた修道会です。第二次世界大戦中、せめてキリスト者間だけでも和解をと、フランスのテゼ村に祈りと労働の共同体が作られ、プロテスタントのみならずカトリック出身のブラザーたちも集まって生活したのです。戦後、そこへ多くの青年たちが訪



れるようになりました。テゼでは、一日三回、歌と聖書朗読として沈黙による共同の祈りの集いが持たれます。その際、説教はなく、皆が同じ方向を向いて座り、つまり神様の方を向いて祈り、主にあって一つとなることを求めます」

この日のプログラムは、ハーブの音色のキーボードの前奏に始まり、テゼの歌八曲。聖書箇所は詩編四十六篇とルカによる福音書からマルタとマリヤの物語。東日本大震災を覚えているの礼拝ということで選ばれた箇所です。連祷には大船渡教会の村谷正人牧師も加わってくださいました。

参加なさった方々からは、「沈黙が約五分、でも全然長くなかった。とても満たされた時間でした」、「何度も短い歌を繰り返して歌ううちに、賛美が祈りになっていきました」、「奉仕者（先唱者・上松悦子）が上手にリードしてくださったので、初めてでもとても豊かな礼拝ができました」、「終わってしまふのが惜しいくらいでした」等々の嬉しい感想をいただきました。

音楽奉仕者として召し出されたことを、心から感謝しています。（修養会委員）

《子どもプログラム》

小さな群れに聖霊が

上尾合同教会 森本 博子

子どもプログラムは、上尾合同教会の真田美智子さんを中心に岩佐いずみさんの協力のもとに担当しました。

三月十一日に東日本大震災が起こったことによりみんなの心が痛む中、主題を「よきサマリヤびとのたとえばなし・今この私にとっての隣人は？」とし、よき隣人となるための学びを子供たちと一緒にしたいという思いが与えられました。

さて当日、自己紹介から始まったCSクラスはなんと一人一人の心がばらばらで落ち着きがありませんでした。が、楽器を使いながら大きな声で賛美をし、体を動かして互いにふれあい、「五感」を刺激することによって子供たちの様子が変わっていきました。真田さんと一緒に子供たちを見ていた私は、散在していた点が線と線で結び合わされて行くのを感じました。また自分の好きな植物で布やはがきをプリン



（修養会委員）

そして聖書を読み、紙芝居を見た後「よきサマリヤびと」を子供たち自身が演じました。こうして子供たちの心が一つの群れにはじめたとき、岩佐さんがフィギュアを使った礼拝で「よきサマリヤびと」を静かな声で語り始めました。凛とした空気の中、今までとは違ったものを感じ取った子供たちは話に集中し、金色の箱からどんなフィギュアが出てくるのか興味津々と言った様子でした。まさに「聖霊が小さな群れに来てくださった」そんな思いをもったひと時でした。

また今回は障がいのある青年も参加者に加わり、十七名の子供たちにとってもよい出会いの時となりました。まさに「神の恵みの再発見」でした。

新任教師紹介



吉川教会 坪内 時雄

ハレルヤ!

主の聖名を賛美いたします。

主の豊かな御摂理の中、恵みの内に、去る二〇一一年七月二十四日(日)、関東教区議長、秋山徹先生の司式の下に、多くの先生方や諸兄諸姉の篤い祈りの中にも支えられ、東京聖書学校吉川教会の担任教師として、就任いたしました。感謝いたします。

私の出身教会は川越市にあります初雁教会です。今も出身教会、就任教会、全国の先生方や諸兄諸姉の祈りに支えられております。一に謙遜、二に謙遜、只、主のみ前に謙遜なものであり続けたいと思います。また、十字架の贖いと復活とを主の豊かなお助けのうち、人々に語り伝えたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。



地区中学生KKS

キャンプ報告

武蔵豊岡教会 池山 晃

今年の夏期キャンプは八月十日〜十二日、軽井沢の立教学院みず山荘で行われました。参加メンバーは十六教会から総勢四十名(生徒二十二名、大人十八名)でした。



テーマは「みんなで手と手を

「だから今日、希望がある(キリストと共に歩まれる)」ルカ二・一〜七でした。

講演のなかでは、ポルトガル語による賛美歌(テーマを歌詞に含み、キャンプソングでもある讚美歌21〜四八〇番「新しい時をめざし」や、「その名はイエス・キリスト」など。日本語訳は先生ご自身でされ当地のDVD映像の紹介、さらに腹話術の人形の登場まであって、私たち参加者に、かの地の雰囲気の色濃く伝えて下さいました。聖書にある「隣人」という言葉を知っていても、人種や民族の相違、貧富や生活環境の格差などというかたちで理解する機会の少ない生徒たちにとつては、刺激的な学びの時であったと思います。そして、隣人を愛するために、それぞれが自分の「タラント」を生かすべきこ



中学生・KKS

フェスタの報告

飯能教会 五十嵐実季

このフェスタは十月十日に開催され、埼玉地区の中高生が三十二名参加して、和やかな一日を過ごす事が出来ました。

最初に共に礼拝を守り、「新しいときをめざし」(賛美歌21〜四八〇番)を元気に賛美し、申命記三十一章六節の御言葉から「ずっと一緒に」という題で私が御言葉を取り次ぎました。

その後、文集製本作業班とカレーパーティー準備班に分かれて作業を行いました。

準備班は、グループに分かれて、サラダ係、フルーツポンチ係、野菜を切つて揚げる係、ナン焼き係に分かれて準備をわいわいと話しながらい、作業班も丁寧に製本をしていました。

軽井沢でありながら強烈な暑さを覚えるほどの好天に恵まれ、また会場のみず山荘には色々とお世話になりました。豊かなキャンプの時をお守り下さった神様に感謝を捧げますとともに、支え、お祈りくださいました皆様にも感謝いたします。

(教育委員会)

カレーパーティーは、ご飯とナン、様々なトッピングを取り、サラダも食べてお腹いっぱいになりました。食後、グループ毎に自己紹介やゲームで楽しく過ごしました。

終了後も、生徒たちは輪になって話し込んだり、ボール遊びをしたりして楽しい時間を

過していました。フェスタは、とても感謝な時でした。

(教育委員会)

第十回 I T 祭り

上尾合同教会 岩佐 浩一

二〇一一年五月十五日(日)埼玉新生教会を会場に、第十回 I T 祭りを開催しました。

今回は、八木谷涼子氏を講師にお迎えし、「新来者が行く八木谷涼子の教会ウォッチ」と題した講演(参加者とディスカッションをしながら)でした。八木谷氏はフリーライターで、キリスト教雑誌「ミニストリー」に講演題と同じ題で連載をされています。数多くの教会を訪れノンクリスチャンの立場からキリスト教界に多くの論評をしています。

冒頭、日本基督教団の印象は、「静かな教会」そして、「学校の授業が好きだった人には適した教会」と話したのには思わず頷いてしまいました。新来者の立場から見ると、教会案内板の重要性は意外でした。当たり前と思っっている私達の感覚と新来者との違いが、ここに出ています。新来者にとっては、案内板は大切な情報です。しかし、一般の教会の案内板は

実際とは違う情報が載っています(礼拝時間、集会案内等)。皆さんの教会はどうですか? 新来者カードにも、幾つもの疑問を投げかけました。そして献金と聖餐式の説明は、文章でもいいのでは非して欲しいとの意見でした。

ホームページに関しては、開いて十秒以内に教会の基本情報(礼拝時間、住所、電話番号)に辿り着けるかがポイント。礼拝の終了時間、都道府県名、牧師の写真と略歴、駐車場の有無、教会堂の写真、結婚式・葬儀・墓地についての問い合わせ等の情報が教会ホームページには、意外と抜け落ちていたり指摘されました。

今回、新来者の立場から見た教会の感想は私達の「伝道」の面でも大いに刺激となり、多くの示唆を与えて頂きました。地区伝道委員会の後援も頂き、例年より多くの四十二名・十五教会の参加でした。第二部では、三芳教会のブログを使用したHP作成のお話も聞くことが出来ました。

(ホームページ委員会)



青年部修養会報告

埼玉和光教会 水谷 理恵

埼玉地区青年部修養会が九月十八日から十九日にかけて行われた。牧師を含めた参加者九人は、一日目はフレンドシップ・ハイツよしみに宿泊して語り合いの時を持ち、二日目は長瀬へ出掛けて交流の時を持った。

一日目は開会礼拝をもって始めた。森淑子牧師が、東日本大震災の被災地へ行かれたご主人のエピソードと、作家・井上ひさしの「I LOVE 日常生活」という言葉を取り上げて、忘れてしまいがちな日常生活の尊さを語られた。

続いて櫻井義也牧師による発題を受け、みなで話し合う時を持った。今回の修養会のテーマは「今、私たちにできること」。櫻井牧師は主の祈りを丁寧に読み解いて、このテーマを深く掘り下げられた。主の祈りはイエスが弟子に、そして私たちに教えた祈りになった祈りであり、二つの福音書に記されている。マタイとルカの記載における違いに着目することから始め、祈りに登場する「わたしたち」とは誰かを考えた。キリスト者として過ごす中で、また震災を受

けて私たちがどうあったらよいかを、一人一人が語った。二日目はさらに震災に焦点



第一七回 障協懇 (アーモンドの会)

埼玉大通り教会 矢崎 武雄

苦しみのただ中にある方々をも覚えて、祈っていききたい。

九月二十三日(金・祝)埼玉和光教会を会場に今年度のアーモンドの会が開催されました。今年度は東日本大震災を覚え、「つながって生きる」―東日本大震災から学んだこと―を主題として開催されました。開会礼拝は土橋地区委員長の「神の業の不思議さ」と題する説教で障がいを負う方々とのつながりに寄せる思いをお聞きし、



御言葉の恵みを頂きました。土橋委員長は震災発生直後から地区の支援活動の働きを率先し、指揮、行動されたこともあり、ひとしおの思いであったも

のと思います。

開会礼拝に続き、講師に北上教会会員で北上市障害者団体連絡協議会会長、みちのくコスモスの会代表を務めておられる、小田嶋義幸さんから「闇をも受け入れて」という演題でお話を伺いました。ご自身が車椅子の生活をされ、未曾有の大震災のなかで非常な困難を受けられました。しかしある時「闇をも受け入れて」ということばを新聞に見出し、十字架上のキリストと重なり、そこから自身が今生かされていることの意味への気づきを与えられた、と語られました。震災被害の壮絶さを改めて知らされたことと合わせ、生きる希望に満ちた小田嶋さんのお姿に大いに一同励まされ、素晴らしい恵みを頂きました。

さらに、証として埼玉和光教会の千木良あき子さんから、自閉症のご息との三十八年の歩みをお聞きしました。このご息に導かれて教会に通うことになり、共に受洗されたこと。ご主人の重篤な病による自営会社の閉鎖と苦難の人生。しかしそれらを経てなお現在、神様につながり、恵みを頂いていることを確信していますとの内容で参加者の大きな共感を

呼びました。

その後、分団の話し合いで交流も深め、改めて障がいのあるなしにかかわらず、参加者から共に生きるための多くの導きを頂き、恵まれた集いになりました。二十六教会 九十一名の集いでした。

教会音楽講習会報告

「テゼ共同体の音楽Ⅱ

―礼拝での実践―

埼玉新生教会 中村百合子

五月に引き続き、十月一日（土）に大宮教会にて「テゼ共同体の音楽Ⅱ ―礼拝での実践―」の講習会を開催しました。参加者は十九教会五十四人（約半数が二回目の参加者）でした。

講師はIと同じ江藤直純先生（ルーテル神学校校長）でし



た。他に、ルーテル教会牧師、

ルーテル学院大学の卒業生、学生の方が、実際の祈りのリードをして下さいました。テゼ共同体については前回学びましたが、現状について少し教えていただきました。テゼ（フランスの片田舎の村の名）共同体には、通常百人ほどの共同体のメンバー（カトリックとプロテスタントの双方から成っている）がいますが、夏には三千人から六千人が世界各地から集まるそうです。その中には、普段は教会に行かない若者、社会でも教会でも魂の満たされない人が多くいるそうです。

また、テゼ共同体のメンバー達は、世界の貧しい地域、困難差別のある場に赴いて働きを満たすことと、社会への和解放、エキユメニカルな（教派を超えた）テゼ共同体の特徴だそうです。

今回後半に「テゼの祈り」を体験しました。「テゼの祈り」の特徴のひとつに「詩編を歌う・詩編で祈る」ことが挙げられます。（詩編は本来歌われていたそうです）詩編四十二編が朗読され、それに引き

続き賛美「アレレヤ」を合わせ

ました。

また、「沈黙」も大切にされます。五分程の沈黙の時でしたが、沈黙の中で、神の恵みを聴き、心開き、神へ語りかけることで、共同体の祈りを経験します。一回目より更に深い豊かな時でした。（教会音楽委員）

八・一五集会の報告

社会委員会 本間 一秀

去る八月十五日午前十時より大宮教会に於いて八・一五集会が行われました。沖縄教会の牧師平良修先生を講師にお迎えし「沖縄・沖縄教会から見える日本国・日本基督教団」と題して講演をして頂きました。以下に概略を記すことにより報告します。

一、沖縄という鏡を通して見える日本という国家沖縄県民の中には「日本人ではない」と言う意識を持った人が概ね四割ある。これが沖縄県民の自意識である。沖縄には琉球王国としての歴史がある。独自の文化、民族性を作りあげて来た。それを戦争も基地も破壊することは出来ない。歴史的な背景の中で、日本国の沖縄に対する構造的な差別を感じる。辺戸岬

の碑には「平和への願いは叶えられず」とある。そして

今、普天間基地の辺野古への「県内移転問題」があるが、本土の各都道府県は非協力的である。日本国民による沖縄差別は続いているが、沖縄は独立の道も追求している。

二、敗戦後一九四六年開かれた第三回教団総会では「沖縄教会」の名は消えていた。教団は沖縄の存在を尊重していたのか疑問である。教団は日本国と同じ体質を持っていると思えてならない。

結び

平良修牧師の講演を聴き「沖縄」をまだまだ理解しなければならぬと痛感しました。余りにも私達は「沖縄」について無理解であったと反省させられた一日でした。これから私達は何を為すべきか？まず「罪責告白」があつて然るべきであります。それには対話と交流を深めていくことです。少なくとも、教会性、会議制を無視した「審議未了廃案」等の安易な方法は慎むべきです。琉球王朝の豊かさ、沖縄の熱風が充分に感じられる八・一五集会でした。

参加者三十七教会（含、東京・名古屋・茨城）百名
（社会委員会委員長）

伝道と賛美の集い

越谷教会 豊川 昭夫

十月二十三日(日)、午後二時より、鳩山伝道所を会場にして、伝道委員会主催の「第二十五回 伝道と賛美の集い」が開催されました。

今年、福音歌手である国分友里恵さんと伴奏の岩本正樹さんご夫妻によるチャペルコンサートと鳩山伝道所の藍田修牧師のショートメッセージを聞く事が出来ました。

藍田牧師は、ご自身の体験談や故広瀬泉造牧師時代に、会堂がある一人の方によって寄付された事等を通して、主がどこまでもひとりひとりを大切に守りぬくという主の愛に満たされた人生の確信を話されました。

国分さんは、歌手の他に作詞家としても活躍し、中山美穂の「ただ泣きたくなるの」はミリオンセラーになりました。クリスチャンホームで育ち、ご夫妻ともクリスチャンです。二〇〇九年に長年親しまれている賛美歌に、わかりやすい言葉を載せた「現代賛美歌(全六十六曲)」を発表してゴスペルCCCM大賞銀賞を受賞しました。今回は、この賛美歌とご夫妻で作ら



(伝道委員)

れたキリスト教関連のオリジナル曲を披露されました。国分さんの透き通った歌声と歌唱力は会衆を魅了すると同時に、現代賛美歌は、私たちに新鮮な驚きをもたらしました。

出演者も含めて六十四名(十五教会)が出席されました。礼拝堂だけでは、とても入りきれず玄関脇のスペースにも椅子を並べました。それこそ伝道所開設以来一番人が集まったのではないのでしょうか。

鳩山ニュータウンには、約一万人の人が住んでいるとお聞きしました。この人たちに対して神様の福音が隅々まで行き届き、この日のように主日礼拝の時に会堂が入りきれなくなるように切に祈ります。

地区壮年部講演会報告

武威豊岡教会 島崎 光雄



十一月十三日(日) 秋期講演会は大宮教会を会場に、阿久戸光晴先生(聖学院大学学長)を講師にお招きして、「福島第一原発事故・脱原発をどのように受け止めるか」をテーマに開催しました。冒頭「今回の原発事故を通して、私たちは私たちの現在の生活のあり方を根本から問われています。」

御言葉のもとに立ち返りながら、これからの日本社会と私たちのあり方を共に考えましょう。」とアピールされ、過去千年、未曾有のこの事態を創世記の教えより「海の魚、空の鳥、すべてを支配せよ。天地創造」「人を創造したがこれを地上からぬぐい去ろう。ノアの洪水」「天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。バベルの塔」を引用し、我々が育成してきた原発によってもたらされた繁栄、膨大な国庫助成金付きの原発事業、そして福島第一原発事故によって判明した情報管理面にも現れた国家事業の破綻。大震災によって現代

の大量消費生活の反省と、私たちの生活形態の変革が迫られていると説かれました。又、大震災後に問われていることを御言葉に聴きました。①下からの地震(存在基盤の崩壊) 苦難は諦念をもたらすものでも因果応報でもなく「新しい神の御業が顕われるためである。」(ヨハネ九章三節) ②横からの津波(絆の挫折) 被災地の人々の孤独と隔たり「主イエスの十字架は隔たりでなく絆をもたらす。」(ヨハネ九章二六節) ③上からの放射能(見出せぬ希望)「復興を主と共に復活体験として。ここに神がおられる。」日本はアメリカ、フランスに次いで原発を五十四基持つ世界第三位の国です。

その多くは福島、福井、新潟など限られた地域の海沿いに立地されています。冷却槽を地下に設計された原子炉は、頻繁に発生する竜巻の被害を避けるアメリカの技術をそのまま受け入れ、津波による冠水は予想していなかったことを初めて知りました。御言葉を通して、私たちのあり方を共に考え学びを深めることが出来ました。出席 十一教会三十七名

(壮年部書記)

二〇一二年埼玉地区 新年合同礼拝へのお誘い

地区委員長 土橋 誠

一年おきに各区新年礼拝と三区合同新年礼拝が行われていますが、二〇一二年は三区合同礼拝の年です。日程は一月九日(月・祝日)、会場は聖学院教会礼拝堂(聖学院大学チャペル)です。たくさん兄弟姉妹が共に集まり、新しい年を喜びあいたいと存じます。

礼拝説教は柳下明子牧師にお願いしました。柳下牧師は北川辺伝道所で牧会をされていた柳下仁牧師の娘さんにあたります。日本聖書神学校教授でラテン語、キリスト教史等を教えておられる若手の研究者であり、日本基督教団武蔵野緑教会牧師でもあります。子どもたちへの説教もお願いしています。

地区委員会では、実行委員会を組織し、具体的な計画の詰めを行っていますが、各教会・伝道所の皆さんにも司式者その他の役割を担っていただくことになっておりますので、ご協力をよろしく願います。



特集

災害の感受性

和戸教会 三羽 善次

この十月に、地区の災害対応委員会として被災地に支援活動に行く予定でしたが、被災地の都合により支援活動がしばらく延期となりました。

そこで、和戸教会において、「東日本大震災から教会が学ぶこと」と題して懇談会を開催した時に話したことに触れながら、改めて震災について考えてみたいと思います。

今回の大震災の直後に、都知事が「これは天罰 人間の欲が洗い流されたんだな」といった主旨の発言がありました。これは、被災地の人たちの心を傷つけ、被災地の悲惨な状況と被災された多くの方々に対して心無いあまりにも軽率な発言でした。また、ある方が、今回の震災に触れて、「埼玉にはこれといった災害もなく、ああいうところと違って大変住みやすいところですね」と、にこやかに語られるのを聞きました。

感じずにはいられません。そもそも「埼玉は大丈夫」という発言自体、震災に対する認識の甘さがあります。ちなみに今度の地震で、和戸教会の建つ宮代町は震度六弱でした。私たちの住むところは（少なくとも日本では）、基本的にどこにあっても災害の危険があると認めるべきではないでしょうか。災害は突然やってくるわけですから、誰もが被災者になることは不思議ではなないのです。（各市町村のホームページには、かなり詳細なハザードマップが載せられていますので参考にしてください。）

ある人は、「災害も人生の一部と覚悟しておけ」と書いていますが、言い得て妙と云えます。それくらいに考えておいた方がいいと思われれます。日ごろからの備えとして防災グッズとか、避難用品というところがやかましく言われていますが、心しておくことは案外、こういうことかもしれません。今、被災した人たちの懸命な姿を、テレビ番組でも新聞でも多く取り上げています。生きる希望を失わないで、物心ともに生活の基盤を取り戻そうとされている姿に心打たれます。わたしたち教会に生きる者が、被災した時、まず信仰者として、その現実を受け止めることが根本になるのではないのでしょうか。

福島の原発事故被害で、教会のほぼすべての人が避難を余儀なくされた福島第一聖書バプテスト教会の人たちが、まず何より、共なる礼拝を大切にしたいということを知ると、あの混乱の中で信仰の背筋を伸ばしている信仰者の姿に、熱い思いにさせられます。そして、その避難場所の礼拝所で洗礼式も執行されたという証に至っては、感動を覚えます。（信徒の友）十月号参照

わたしたちは混乱時には、自分の生活の回復で頭がいっぱいになり、とても礼拝していることなど出来ないという思いが優先しがちになるのではないかと思います。ある教会の信徒が、今回の地震の後、こんな非常時に「礼拝などしていいんですか」と、牧師をなじったという話を聞きました。が、この言葉には暗澹（あんたん）たる思いにさせられます。私たちは平素にあっても、被災の中にあっても、信仰者として何を第一にするか、ということとを心に留めておかなければならないのではないのでしょうか。この当たり前と思われることを、教会に召されている者として明確にしておきたいと思えます。（災害対応委員会）

お預かりした衣料の現状

地区委員長 土橋 誠

埼玉地区諸教会・伝道所の皆様のご協力によって三月から四月にかけて集められた衣料のうち、冬物を飯能教会の会堂二階に保管していました。

奥羽教会の大船渡教会の村谷正人牧師と秋の衣料バザーの可能性を話し合いましたが、難しいという結論となりました。次に、東北教会のエマオにある被災者支援センターと、被災地で衣料バザーを開催できないかどうかを相談しました。センターでは十月上旬まで仮設住宅でのバザー開催の可能性を探って下さいましたが、困難であるという返事を頂きました。

この様なことがあった後、羽生伝道所関係者が石巻市の仮設住宅に物資の提供を十月末に予定しているため、衣料の提供をという申し出がありました。が、物資が集まり過ぎたので

という電話があり、衣料の積み出しはキャンセルとなりました。

地区としての被災地での衣料バザー開催は困難であるという見通しの中、上尾合同教会の教会員の方から仙台市の知人が衣料を求めているので提供したいという申し出がありました。ワゴン車二台半程度の衣料を十月二十二日に飯能教会まで受け取りに来て、宅急便の隙間便（安い宅急便があるそうです）で送っていただきました。また、小川教会でのバザーにワゴン車二台分、愛泉教会の関係施設である「愛の泉」のバザーに、やはり貨物用ワゴン車二台分を提供しました。それぞれバザーでの衣料販売の収益金を教団の一億円募金に献金していただくことになっています。

被災地は、既に冬到来。厳しい生活環境にある方々の必要とする事に少しでもお役に立ちたいと思い、諸教会・伝道所の皆さんからお預かりしている大切な衣料を何とかして何らかの形で用いさせていただきます。冬物類は、あと貨物用ワゴン車四台分ほどあります。（飯能教会）

地区委員会報告

編集後記

●二〇一一年度第三回委員会

日時 七月十二日(火)
会場 大宮教会
出席 十一名

【主な報告・協議事項】

◆委員長報告

①地区内の教会・教師の報告

・日野原上尾栄光教会 長橋
晴子伝道師就任式 山ノ下
恭二委員出席 五月二十九
日

・越生教会 西海満希子牧師
就任式 土橋誠委員長出席
六月十二日

・東松山教会 塚本洋子牧師
就任式 土橋誠委員長出席
七月十日

・東京聖書学校吉川教会 片
平貴宣牧師 辞任

・羽生伝道所 小田原紀雄伝
道師 主任担任を辞任、担任
教師就任

・羽生伝道所 星山京子伝道
師 担任を辞任、主任担任教
師就任

②委員長活動報告
・関東教区常置委員会 六月
十四日

・関東教区「東日本大震災」被
災支援委員会 五月十三日、
六月十四日、七月一日

◆書記・補助書記報告

・関東教区宣教総合協議会の
案内と教会全体修養会の参
加をお願いをインターフアク
スで配信した。

・関東教区の依頼で東日本大
震災被災支援ニュースを地
区教職のメールアドレスで
配信している。

◆新年合同礼拝(三区合同)開
催の件

日時 二〇一二年一月九日
(月・祝) 午前十時三十分
会場 聖学院教会礼拝堂

実行委員会を設置(土橋、中
村、東野、結城、山ノ下、山
田)、第一回実行委員会を、九
月二日(金)午後六時三十
分、聖学院教会で開催するこ
ととした。

◆隠退教師を支える会への委
員派遣の件

関東教区より、同会へ埼玉地
区から委員派遣の依頼があ
り、今年度は三井田忠昭委員
を派遣することとした。

◆その他

・鴻巣市で開拓伝道をしてい
る岡村紀子教師と久喜市で
開拓伝道をしている山野裕
子教師には、地区の交わりと
して必要に応じて、各集会の
案内を送付する。

・九月二十一日(水)午後五時

から、埼玉新生教会で開かれ
る第二回災害対応委員会に、
土橋委員長、中村副委員長、
東野書記が出席して、埼玉地
区の災害対応について協議
する。

●二〇一一年度第四回委員会

日時 九月六日(火)
会場 埼玉新生教会
出席 十一名

【主な報告・協議事項】

◆委員長報告

①地区内の教会・教師の報告
・北川辺伝道所 櫻井義也牧
師就任式 土橋誠委員長出
席 七月二十四日

・東京聖書学校吉川教会 坪
内時雄伝道師就任式 東野
尚志書記出席 七月二十四
日

②委員長活動報告

・関東教区常置委員会 九月
六日

◆書記・補助書記報告

・地区月報八月号に、「二〇一
一年度埼玉地区各委員会各
部名簿」を掲載した。

◆新年合同礼拝(三区合同・地
区委員会主催)開催の件
九月二日に開催された第一
回実行委員会の報告を受け

て、以下の決定をした。

①日程は、既定通り(第三回委
員会報告参照)

②礼拝説教者 柳下明子(やな
した あきこ) 牧師(武蔵野
緑教会、日本聖書神学校教
授)

③聖餐司式 【主】 山岡創牧師
(坂戸いずみ)、【副】 松本の
ぞみ牧師(上尾使徒)

④当日の奉仕分担、費用その他
について確認した。

◆伝道所・集会所との懇談会
の件

地区内伝道所・集会所と地
区委員会が懇談の時をもち、
伝道の状況を聞きながら、悩
みや喜びを分かち合うこと
とした。日程・会場は委員長
が調整。

◆教会全体修養会決算の件

特別なプログラムのため赤
字決算となったが、全額、一
般会計の予備費より補填す
ることとした。

◆地区伝道協力金申請の件

桶川伝道所より十二月十日
のクリスマス・チェロ・ピ
アノコンサート開催にあた
り、予算総額七万円の内、三
万三千円の協力金要請があ
り、これを承認、地区伝道会
計より支出することとした。

地区全体修養会では、前任と
現職の教団議長が、教団の取り
組みから個々の教会における
明日の教会について、また村谷
牧師(大船渡教会)は、被災地
での教会の役割や活動につい
て、それぞれ熱い思いを込めて
報告されました。テゼ共同体に
よる礼拝も新しい経験となり
ました。

中学生・KKSキャンプで
は、地区修養会と一部日程が重
なりましたが、軽井沢みず山
荘にて四十人の参加者で良き
学びと交わりが生まれました。そ
れぞれ地区全体の交流と連帯
を培う貴重な機会として、教会
行事の中に位置づけていただ
きたいものです。

八・一五集会の報告は、今号
の「埼玉の夜明け」の報告と重
複する部分を割愛させていた
だきました。詳細はどうぞ「埼
玉の夜明け」をお読みくださ
い。

「特集」として計画しており
ました被災地支援活動は、被災
地の都合で、急遽支援方法が変
更されました。災害対応委員会
には、私たちの災害に対する意
識の持ち方について、報告いた
だきました。(三井田)